



音楽の学習での地図活用

奈良教育大学教授 岩本廣美

音楽の授業で、子どもたちは、歌唱や楽器演奏、鑑賞などの活動を行いながら、日本全国や世界各地の音楽、楽器、作曲家なども学習しています。音楽を通して、知らず知らずのうちに、背景にある外国について学習する機会になっています。このことに着目し、ここでは、音楽との関連で地図帳を活用して外国を学習する事例を小学校高学年から3つ取り上げ、具体的に述べます。

1. 5学年「アジアの音楽に親しもう」

A社の音楽教科書では、5学年の鑑賞教材として、アジア各地の民族楽器などを取り上げています。朝鮮半島のカヤグム(12弦の琴)、中国のアルフー(二胡ともいう、2本の弦を弓で弾く)、インドネシアのガムラン(金属でできた打楽器)、インドのシタール(金属でできた弦を指で弾く)といった楽器が紹介されています。

音楽の教科書ですが、それぞれの楽器の写真や民族衣装を身につけた人物とともに、外国の国名なども記載されていて、社会科の教科書と見紛うほどです。

こうした内容と関連させ、ぜひとも活用したいのが、帝国書院発行『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』(以下地図帳)のp.55~56

①「アジア」です。この拡大図の朝鮮半島から中国にかけての地域(図1)を見ると、先に挙げたカヤグム、二胡(アルフー)のほか、モンゴルの馬頭琴も記載され、楽器の背景に

あるそれぞれの国の位置や広さなどを学ぶことができます。また、ここで挙げられた国々は日本に近く、それぞれの楽器が、琴や三味線などの和楽器と類似していることに気づく子どももいるでしょう。



図1『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』p.55~56①

2. 6学年「世界の音楽に親しもう」

先の音楽教科書では、6学年の鑑賞教材として、ロシアのバラライカ(指で弾く弦楽器)、イギリスのバグパイプ(管楽器)などの楽器のほか、それぞれの地域の音楽に合わせて踊るダンスの例として、スペインのフラメンコ、ブラジルのサンバ、アメリカ合衆国のハワイアンなどを

取り上げています。フラメンコについては、地図帳p.59~60①「ヨーロッパ」のスペ



図2『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』p.59~60

*掲載している地図は、平成23年度より使用している地図帳のものです。

イン付近（図2）を見ると、踊る女性のイラストが描かれているほか、闘牛や料理のパエーリャ、世界遺産アルハンブラ宮殿なども描かれ、地図帳の活用によって、フラメンコの舞台であるスペインの文化について多面的に学習することができます。

サンバに関しては、地図帳p.61～62①「北アメリカ・南アメリカ」のブラジルの南部付近（図3）を見ると、大都市リオデジャネイロで「リオのカーニバル」の記載とともに、サンバを踊る女性のイラストを発見することができます。また、サンバの舞台になっているブラジルは広大であり、熱帯林や野生動物など豊かな自然とともに、鉄鉱石やボーキサイトなど天然資源にも恵まれた国であることや、サッカーがさかんな国であることなどを学ぶことができます。



図3 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.61～62①

3. 卒業式で歌う「ほたるの光」のふるさと

3学期は卒業式のシーズンです。多くの学校の卒業式で歌われる「ほたるの光」は、イギリス北部のスコットランド地方の民謡がもとになり明治時代に日本語歌詞がつけられた

歌唱曲です。もとになった民謡の歌詞の意味は、幼な友達が久しぶりに出会い、さあ酒を酌み交わそうというものです。日本語歌詞とは意味が少々異なりますが、外国の曲が日本で定着した典型的な例と見ることができます。

先にもあげた地図帳p.59～60①「ヨーロッパ」のスコットランド地方の付近（図4）では、ト音記号を付して「ほたるの光」と記載し、曲のふるさとであることを示しています。こうした記載は、アメリカ合衆国における「聖者の行進」のように、この地図帳の外国関連ページのところどころにありますので、子どもたちに見つけさせると意外な発見があって興味深い学習になることでしょう。



図4 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.59～p.60

* * *

これまで述べてきたように、音楽の学習の際、地図帳を使ってその音楽の背景にある舞台を学ぶことによって、外国に関する学習が深まることは明らかです。同時に、それぞれの音楽をより深く味わうことにつながり、地図帳の活用が音楽の学習の深化にも貢献することに私たちは改めて注目すべきでしょう。

*弊社ホームページに、音楽の学習での地図活用に関連するワークシートを掲載します。